

# 令和元(2019)年度 病害虫発生予報 第12号

令和2(2020)年3月18日  
栃木県農業環境指導センター

## 気温の上昇に伴う病害虫の発生増加に注意しましょう。

予想期間 3月下旬～4月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

### 1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや少ない**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少(平年比 58%：ほ場率、平年比 18%：株率)。(－)  
・向こう1か月の降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・下葉を除去し、風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。  
・発病した果実、果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。  
・発生状況に応じてファンタジスタ顆粒水和剤等を株の内部にもよくかかるよう散布する。
- (4) 備 考 ・ [薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターホームページ (HP) に掲載中。

### 2 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並 (平年比 81%：ほ場率、平年比 82%：株率)。(±)  
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は平年並の見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・低密度のうちにカウンター乳剤等の IGR 剤を散布する。  
・花を観察して、1割以上でアザミウマ類が見られた時は、被害が大きくなる恐れがあるため、スピノエース顆粒水和剤等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュース No. 12](#)、[薬剤感受性検定結果](#)、[続報](#)を当センターHP に掲載中。

### 3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並 (平年比 61%：ほ場率、平年比 53%：株率)。(±)  
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は平年並の見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。  
・気門封鎖剤や天敵製剤を活用するとともに、化学農薬のローテーション散布を行うことで抵抗性の発達を抑制する。  
・気門封鎖剤は、5日程度の間隔をおき複数回散布する。  
・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ [薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

### 4 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや多い (平年比 156%：ほ場率、平年比 75%：株率)。(＋)  
・向こう1か月の降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、施設内の湿度低下に努める。  
・発病葉、発病果や花卉は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。  
・発生状況に応じてセイビアーフロアブル 20 等を葉裏にもよくかかるように散布する。  
・微生物防除剤 (ボトキラー水和剤等) は発病前～発病初期に使用する。また、低温条件では効果が出にくいので、施設内温度は 10℃以上を確保する。
- (4) 備 考 ・ [薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHP に掲載中。

### 5 たまねぎ べと病

- (1) 発生予想 ・発生量： **平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並 (平年比 43%：ほ場率、平年比 0%：株率)。(±)  
・向こう1か月の降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。(±)

- (3) 対 策 ・発病した株は、速やかに抜き取り、ほ場外で処分する。  
 ・発生予防に重点を置き、ジマンダイセン水和剤等を散布する。

## 6 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量：平年並  
 (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少（平年比 59%：ほ場率、平年比 5%：株率）。（－）  
 ・向こう 1 か月の平均気温は高く、日照時間は平年並の見込み。（＋）  
 (3) 対 策 ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。  
 ・葉裏をよく観察し、発生が認められたら下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に気門封鎖剤やスターマイトフロアブル等を散布する。  
 (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

## 7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
いちご	うどんこ病	少	少	トマト	黄化葉巻病	多	多
	アブラムシ類	平年並	やや多	きゅうり	べと病	やや多	やや多
トマト	葉かび病	やや少	やや少		アザミウマ類	平年並	やや多
	コナジラミ類	少	やや少	たまねぎ	アザミウマ類	多	多

### 春の病害虫防除対策

#### ○麦類赤かび病

出穂や開花状況をよく観察して、適期に赤かび病防除を行いましょう。[植物防疫ニュース No. 13](#)を当センターHPに掲載中。

#### ○いちご親株床

親株定植の準備を万全にし、親株に病害虫の発生がないかよく確認して定植しましょう。また、本ぼと親株床の管理作業を分け、本ぼからの病害虫の持ち込みを避けましょう。

#### ○トマト コナジラミ類、キュウリ アザミウマ類

気温の上昇に伴い、施設内で越冬したコナジラミ類やアザミウマ類が急増するおそれがあります。特に、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病を媒介し、ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病を媒介するため、ほ場内をよく観察し、早期防除を心がけましょう。病害虫防除対策のポイント ([No. 10 キュウリ黄化えそ病](#)、[No. 22 トマト黄化葉巻病](#)) を当センターHPに掲載中。

#### ○なし黒星病

一次伝染時期となるりん片脱落期から開花後は最重要防除期です。果そう基部病斑（芽基部病斑）の摘み取りを徹底し、2分咲きから落花直後に治療効果のあるDMI剤を散布しましょう。

ORACコードを参考に、同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

○花粉媒介昆虫（ミツバチ、マルハナバチ）や天敵に対する影響日数を目安に薬剤を選択しましょう。

ミツバチ・天敵等に対する農薬の影響の目安①、②、③を栃木県農作物等病害虫雑草防除指針 参考資料に掲載中。<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/tochigi>

○農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう。

#### 1か月気象予報（予報期間3月14日から4月13日 3月12日気象庁発表）

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、高い確率80%です。3～4週目は、高い確率60%です。

#### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項 目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	10%	10%	80%
降 水 量	30%	40%	30%
日照時間	30%	40%	30%

詳しくは農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi\_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。